

あゆみ通信

VOL156.

あゆみの会(真宗大谷派大阪教区第2組同朋の会推進員連絡協議会) 会長 細川 克彦 広報 本持 喜康

絶対他力の大道

清澤満之師(林曉宇先生訳)

第7章

一切を如来におまかせした者は、常に死の上に立って生きるべきであります。殺されるも餓死も元よりおまかせした身であります。

既に生死をおまかせした者にどうして衣食の心配がいりましょうか。もしお与えがあればこれをいただき、お与えが尽されれば静かに死んでゆけばかりであります。

もし妻子や家族を養わねばならぬ者は、まず妻子や家族に衣食を与え、その残りで自分を養うべきであります。もし自分が死んだら妻子はどうなるかというようなことは少しも心配する必要はありません。それにはただ絶対他力のおはからいを信ずることです。如来は決して彼らを見殺しにすることはありません。(つづく)

迷、教えて気づきまた迷う

日々の生活の中では、不足、不平、不満と不安の毎日である。いろいろな機会の仏法聴聞で「不安は自らが作り出して、その不安に自らが悩んでいる」と教えていただいて、「なるほど」と気付くが、日常生活の中では、変わらず不安がいっぱいである。毎日、寝る際には「朝起きて、ちゃんと目が覚めるだろうか」「膝痛で、いつ人工関節手術をすることになるのだろうか」「コロナはいつまで続くのか」などを愚痴も含めて思うことばかりである。結局、頭では分かっているつもりでも、身にはついていないということ。

お釈迦様の縁起の法ではないけれど、「縁次第で、なることはなる、ならないものはならない。すべてはお任せである」と、教わって納得しているのは、自分の思い。教えが身に沁みるのは難しい。「難中之難無過斯」である。

繰り返しても、聞法することで気付かされる。それを繰り返せばよいと、教えられる。(本)

浄土真宗の宗祖親鸞聖人は「浄土和讃」の中で

安樂浄土にたると
五濁悪世にたるとは
釈迦牟尼のごとくして
利益練生にたるとはなし

と言う一首を詠まれています。このご和讃の中で親鸞聖人は「浄土に往生した方は仏様となり、そこから私たちの生きる苦しみや悩みの尽きない娑婆世界に立ちかえり、あたくもお釈迦様のように、『南無阿彌陀仏』の声となって私たちの現世を支えてくださる」とお示しひびかれます。



私たちは大切な人を失った時、その人と関わりそこで終わってしまったかのような喪失感を抱きます。もう会えない、もう声は聞かない、触れることは出来ない、そのような寂しさで胸がいっぱいになります。

しかし親鸞聖人は「ほんとうにそうだろうか?」と、このご和讃をおして私たちに問いかけてくださいます。

確かに大切な人が亡くなれば、物理的にその人と関わりを持つことは出来ません。しかし、それでその人とのつながりのすべてが終わってしまうかと言えば、決してそうではないでしょう。その人が生きてくれた姿、そして亡くなってくれたその姿が、今を、そしてこれから生きる私たちを支えてくれると言うことがあるのではないのでしょうか。

その人が何を大切に生きていったのか、その人が何を願って亡くなっていったのか、亡き人の願いを確かめることは、それはそのまま今の私自身の生き方を見つめなおすことにつながると思います。「亡き人」と、今を生きる「私」のつながりをもう一度見つめなおす大切なきっかけとなるのが「お彼岸」であるように思います。

そう考えた時、「お彼岸」は私たちが亡き人を一方的に供養する日ではなく、私たちと亡き人がもう一度出会い直す日なのかもしれません。

「あなたよ、どうい生活方をしていますか」

私たちは今、彼の岸から問われているのです。

(荒山信(名古屋教区惠林寺住職)「お彼岸」東本願寺発行より)

第37回第2組同朋大会

日時 3月12日(土) 午後2時
会場 御堂会館

4階Aホール
内容 勤行と法話
講題「願・自身
～人生は食、これ道なり～」

講師 酒井正夫師
参加費 1000円

(記念品有)

申込 お手次の寺院へ(定員60名)

あゆみの会第1回例会

みなさん、コロナウイルス感染拡大が止まりませんが、お変わりありませんか。

一昨年からコロナ騒ぎで、一番大切な人と人との関りが断ち切られ、この時期だからこそ必要な仏法聴聞(聞法)会が中止のやむなきにいたり、残念な思いでここまで参りました。

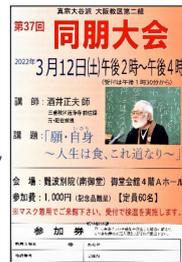
今回は、はっきりしないことですが、最大限のコロナ対策を払い、緊張をもってマスク着用・手指の消毒と換気を徹底しながら、第1回例会を開催しようと思ひます。無理なくご参加ください。ただし、体調不安の方は無理をされないようにお願いします。感染状況により変更があります。

日時 3月25日(金) 13:30
会場 稱念寺(天王寺区夕陽丘)

講題「出会いを戴く」
講師 岸野 龍之先生
(稱念寺 住職)



アクセス
地下鉄谷町線「四天王寺夕陽丘」下車⑤番出口



紙上法話

大無量寿經の仏道⑦
延塚知道先生

だから
光顔巍々と輝
いとると言っ
ても、顔がき
れいだったと
言ってるわけ
じゃないんで
すね。お釈迦
様の智慧を、
そういう風にほめてい
るんです。この智慧と
言うのはどう
いうものなのか、分
りますか。難しい
ね、これは。つま
り顔がきれいとい
うことを言っ
てるのではない。



お釈迦様の体からあふれる
ような智慧が輝いてますと、
そういう風に言ったわけ
です。そういう出会いが起
こっておると言うことは、
お釈迦さまを智慧の仏
様と仰いでいること
になります。今まで阿
難は、お釈迦様は勝
れた人だ、しかし普
通の人間だと思っ
ていたのかもしれん。

ところがある日、お釈
迦様は智慧のお姿を
しています。そしてこ
う言います。「明ら
かなる鏡、清き影表
裏を通るが如し」お
釈迦様のお姿は、智
慧の姿で輝いていて
鏡のようです。鏡と
言うのは、自分の姿
を映し出してくれる
。皆さんは、そんな
人に会ったことがあ
りますか。

智慧があるって言う
のは、どういうことか
と言うと、それ自体
で満足するって言う
こと。これはこれで、
じゅうぶんである。
いいところも悪い
ところも全部、仏さ
まからもらったところ
や。これ自体で満足
だという。自体満足
していると言うこと
が、智慧の姿である。

満足しない心

反対に言うと、私
たちは智慧がないた
めに、慢性欲求不満
症。一年中、慢性的
な欲求不満の症状
です。人間は、そう
なるようになってる。

お釈迦様が出家さ
れるでしょ。そして
王子であった地位も
名

誉も、みんな捨て
ますね。世間のもの
を、捨てるんです。
それは何をいって
いるかと言うと、
私たちは世間のど
んなものを持って
きても、絶対に満
足しない。そうい
う気持ちがすべて
の人間の中にはあ
る、ということ
を教えてください
ます。

現代は皆さん金
持ちになって、豊
かになったよ。僕
が生まれたころは、
戦後の何もなかつ
たころだから、あ
のころから比べ
たら、みんなすご
い豊かになったよ。
格好だけなら、
みんな女優さん
みたいや。昔僕
が生まれたころは、
じいちゃん、ば
あちゃんはみんな
破れたモンペは
いていた。今は、
みんなきれいな
服着てる。

だからと言って、
それで十分かとい
ったらそうでない。
何かいつも足ら
んような気がする。
いくら金があつ
ても、健康であ
つても、名誉があ
つても、何かい
つも足らんよう
な気がする。

それは人間の中
に、世間のもの
では絶対に満足
しない心がある
からです。けれど
も、それを満足
させようとした
時には、仏法聞
いてない人は、
この満足しない
心をどうやって
埋める。すると
考え付くのは、
世間のことばっ
かり。金持ちに
なろうとか、地
位と名誉をつけ
ようとか、権力
を持とうとか
そんなことしか
考えつかん。

だから世間の
ものでは満足し
ない心があるの
に、それを埋め
ようと、また世
間のものを持
ってくる。そんな
ものは、欲求不
満になるに決ま
ってる。人間と
言うのは構造的
に、初めから
自体満足しない
ようになってる。
だからいつでも、
何か足りないよ
うな気がする。
いつも慢性欲求
不満症になって
る。

ところが仏さん
と言うのはそう
じゃない。自体
満足している。
この智慧の姿
の中で一番は
つきりしとる
のが、自体満
足やと、それ
自身で満足し
てる。そんな
人が周りに。

第2組聞法会
日程決まる

1月18日(火)午後5時から
光照寺で第2組教化委員
会が、そして25日に組
会が開催され、墨林
浩組長提案の聞法会
が、以下の通り決
まりました。

いずれも14:00開会
です。

○第1回

日 4月28日(木) 会場 宗恩寺
講師 大橋恵信先生
(18組 遠慶寺)

○第2回「共に学ぶ正信偈」

日 5月27日(金) 会場 了安寺
講師 新田修巳先生
(4組 正業寺)

○第3回

日 6月18日(土) 会場 法山寺
講師 宮部 渡先生
(15組 西稱寺)

○第4回「共に学ぶ正信偈」

日 7月23日(土) 会場 唯専寺
講師 新田修巳先生

○第5回

日 8月27日(土) 会場 光照寺
講師 広瀬 俊先生
(17組 法観寺)

○第6回「共に学ぶ正信偈」

日 9月27日(火) 会場 専行寺
講師 新田修巳先生

もし一人でもいたら、
ちょっとちがうよ。

僕らは欲求不満な
ものが集まって、
人間の関係がで
きる。いつも仲
間を作って、そ
れでまた仲間
同士で喧嘩す
る。自分が足ら
んところを、何
とかして人で
埋めようとし
たりして、人
間の関係を作
ってる。

旦那さんと奥
さんの関係も、
同じじゃない
ですか。俺の
ためとか、私
のためとか言
うようなこと
しか考えつか
ん。いつも何
か欲求不満の
者同士の、人
間の関係しか
できない。そ
ういう中に、
自体満足して
いるが一人
でもいると、
人間の関係
が違ふんや。
うまいこと
言われへん
けど違ふんや。

(つづく)

※この法話は、延塚先生が2000(平成12)年6月本光寺の「光雲研修会で話されたものです。